

令和5年度

# 事業報告書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

社会福祉法人 へいりん荘

## 1 役員会等開催と審議内容

### (1) 理事会

- 令和5年6月1日
- ・令和4年度事業報告の承認について
  - ・令和4年度法人本部拠点区分資金収支決算の承認について
  - ・令和4年度軽費老人ホーム拠点区分資金収支決算の承認について
  - ・次期理事候補者の決定について
  - ・次期監事候補者の決定について
  - ・評議員候補者の決定について
  - ・次期評議員選任・解任委員会委員の選任について
  - ・社会福祉法人へいりん荘経理規程の一部改正について
  - ・社会福祉法人へいりん荘軽費老人ホーム管理規程の一部改正について
  - ・定時評議員会の招集について

- 令和5年6月22日
- ・理事長の選定について

- 令和6年3月4日
- ・令和5年度法人本部拠点区分資金収支補正予算（第1回）
  - ・令和5年度軽費老人ホーム拠点区分資金収支補正予算（第1回）
  - ・令和6年度事業計画について
  - ・令和6年度法人本部拠点区分資金収支予算
  - ・令和6年度軽費老人ホーム拠点区分資金収支予算
  - ・評議員候補者の決定について
  - ・評議員会の招集について

### (2) 評議員会

令和5年6月22日（定時評議員会）

- ・令和4年度事業報告の承認について
- ・令和4年度法人本部拠点区分資金収支決算の承認について
- ・令和4年度軽費老人ホーム拠点区分資金収支決算の承認について
- ・社会福祉法人へいりん荘理事の選任について
- ・社会福祉法人へいりん荘監事の選任について
- ・社会福祉法人へいりん荘経理規程の一部改正について
- ・社会福祉法人へいりん荘軽費老人ホーム管理規程の一部改正について

- 令和6年3月12日
- ・令和5年度法人本部拠点区分資金収支補正予算（第1回）
  - ・令和5年度軽費老人ホーム拠点区分資金収支補正予算（第1回）
  - ・令和6年度事業計画について
  - ・令和6年度法人本部拠点区分資金収支予算
  - ・令和6年度軽費老人ホーム拠点区分資金収支予算

### (3) 監事会（※ 監事は理事会、評議員会に出席）

- 令和5年5月19日
- ・令和4年度事業報告書並びに各会計資金収支決算書（収支計算書、貸借対照表、財産目録等）についての決算監査の実施
  - ・令和4年度理事の業務執行の状況及び法人の財産の状況についての定期監査の実施

## 2 財務の状況

令和5年度の当法人の財務会計状況については、別紙の法人本部及び軽費老人ホームの各拠点区分別決算書、附属資料の通りである。円安をはじめとする先行きがなかなか見通せない社会経済情勢下にあつて、光熱費や食材費などの価格の上昇がへいりん荘の財政運営を圧迫しており、合わせて施設・設備の経年劣化等により経常的な維持管理経費の負担も増嵩しているが、令和5年度は行政からの臨時的な補助金の交付があったことから黒字の決算となったところである。

## 3 法人施設整備計画への対応

令和5年度においては、新型コロナウイルス感染対応のための施設の整備も一段落したことから、大きな施設・設備関係の工事は無かったが、値上がりした電気料金の負担軽減を図るため、山梨県の省エネ設備導入事業補助金を活用して老朽化した食堂ホールのエアコンを省エネ性能の優れたエアコンに交換する工事を行うとともに、職場環境改善の一環として衛生管理面の向上のため、調理室のトイレのリニューアル工事を行った。また、入所者の入浴時の転倒防止等安全を確保するため、脱衣室から浴室への出入り口に手すりを設置した。このほか老朽化している浄化槽の補修工事や消防設備の修繕工事も行い、安全で快適な生活環境整備に努めた。

目下、施設の長寿命化に資する大規模な改修、修繕工事の具体的な計画は無いが、今後、財政状況を考慮しながら安全、安心で快適な生活環境を維持するための改善・補修工事は、必要に応じて順次行っていくこととしている。

## 4 軽費老人ホーム運営状況

(1) 入所者の状況（令和6年3月31日現在 但し、アの月別入所者数は毎月1日現在）

ア 月別入所者数（定員50名） 月平均50名（入所率100%）

（単位：名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (延べ)
男	19	18	18	17	17	17	17	17	16	17	17	18	208
女	31	32	32	33	33	33	33	33	34	33	33	32	392
計	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	600

※年間 新たな入所者 12名 退所者 12名

イ 年齢別

60～64歳	0名	65～69歳	2名
70～74歳	3名	75～79歳	8名
80～84歳	9名	85～89歳	18名
90～94歳	6名	95歳以上	4名

ウ 平均年齢 男 79.8歳 女 86.2歳 平均 83.9歳

エ 出身地別

甲府市	32名	甲斐市	3名	笛吹市	4名	南アルプス市	2名
韮崎市	3名	富士吉田市	1名	北杜市	2名	県外	3名

オ 在所年数

15年以上	3名	11年～14年	3名
6年～10年	10名	2年～5年	13名
1年以上～2年未満	10名	1年未満	11名

カ 外出者数 男(延) 528名 女(延) 1,471名 計(延) 1,999名

キ 外泊状況（除入院等）

男（延） 0回      女（延） 5回      計（延） 5回

ク 面会者数      （延） 103名（うち入所者家族 84名）

※在宅介護サービス等の来荘者は含まない。

ケ 年金等の受給状況（含重複受給）

厚生年金	35名	遺族厚生年金	7名	国民年金	6名
障害年金	3名	厚生年金基金	1名	個人年金	0名
企業年金	0名	企業共済年金	1名	恩給	1名

(2) 処 遇

ア 概 況

今年度も従前に引き続き、入所者が「安全に安心して心豊かに快適な毎日を過せること」を基本に、年間を通じて、職員会議等の開催により職員相互に入所者に関する情報共有を図りながら、それぞれの入所者が必要とする各種支援を行い、良質なサービスの提供を心掛けた。長引くコロナ禍にあつて入所者に対する行動制限には負の影響も出ることから、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、2類相当から5類に移行したこともあり、日常生活の閉塞感を和らげるため、行動制限や面会制限を緩和することとしたが、引き続き感染予防に努める観点から、昨年と同様に室内における入所者が長時間参加する行事等は開催時間や規模を縮小して実施することとした。日帰旅行の再開は見合わせたが、敬老祝賀会や七夕まつり、クリスマス会、節分の豆まきなどは、内容を簡素にして開催し、可能な範囲で季節感のある楽しさ溢れる入所者の生活環境作りに努めた。（お花見会は、桜の開花が遅れたため新年度に入ってから実施となった。）

また、健康の保持に資するため、感染予防に努めながら、毎朝午前9時半と午後3時のラジオ体操、散歩会、グラウンドゴルフ、介護予防体操等を実施した。なお、引き続き室内で密になり感染のリスクが高いとされるカラオケクラブ、茶道クラブ、折り紙クラブ、合唱クラブ等のサークル活動は実施しなかったが、大人のぬり絵クラブや脳トレクラブ（工作なども行う）は定期的に開催し、作品を掲出するなどして入所者の好評を得た。入所者有志には、個々に圃場での野菜・花卉の栽培等を通して生きがいを感じていただくとともに、荘庭の樹木の手入れや除草、共用場所の清掃など環境の整備・美化に取り組んでいただき、入所者が自立して安らぎに満ちた日常生活を送れるように努めた。

衛生面においては、日々の入浴、部屋のかたづけ等の支援により身の清潔保持に努めるとともに、入所者個々の排尿、排便、洗濯、残食管理、居室整理等の状況を確認して必要な支援を行うとともに、健康診断結果や持病・既往症を把握する中で積極的に体調の管理をサポートし、入所者の健康的な生活の実現に取り組んだ。

感染性胃腸炎（ノロウイルス）、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症等の感染予防対策として、入所者及び職員へのワクチン接種、食堂席にアクリルパネルの設置継続のほか職員の日常業務の中では施設の清掃、消毒、手洗いの徹底などに留意するとともに、面会者等に対してもマスク着用や手指の消毒の徹底を促し、その感染予防に取り組んだ。

なお、鋭意感染予防に努めてきたが、年間を通して入所者2名、職員5名の合わせて7名の新型コロナウイルスへの感染が確認された。入所者の2名は入院治療、職員は自宅療養でクラスターにはならず、それぞれ症状も軽く全員が無事回復している。

また、入所者には、介護保険制度への理解を深めてもらい、介護認定の結果にもとづく各種のサービスを効果的に利用していただいた。今後も引き続き、介護保険の各種サービ

スの適切な利用を図り、入所者が長きにわたり自立した生活を継続できるよう関係機関、関係事業所と連携して取り組んでいくこととする。

給食については、食材費の値上がりが続いている中であっても、入所者の嗜好をふまえつつ、バランス、バラエティ、栄養価に配慮して手づくりの味が堪能できるよう献立を工夫し対応した。また、個々の身体の状態に応じて、刻み食、おかゆの提供など、食生活の面からも入所者へのきめ細かな対応を行った。

なお、マイナンバーカードの取得の便宜を図るため、12月に市役所市民課の協力を得て、本荘において出張申請受付、出張交付を実施した。

#### イ 年間の主な行事等

月	日	行事内容	場所	参加者	
				入所者	外部の方
5	26	入所者検診（胸部レントゲン、心電図）	荘内	46名	
6	28	輪投げ大会	荘内	20名	
7	7	七夕まつり	食堂	19名	
8	8	夏まつり 縁日	荘内	33名	
9	14	敬老の日祝賀会	食堂	48名	
9	20	総合防災訓練	玄関前	45名	
10	20	入所者検診（血液検査ほか）	荘内	50名	
11	21	避難訓練（夜間）	玄関ロビー	47名	
11	29	焼き芋会	荘庭林間	25名	
12	22	クリスマス会	食堂	46名	
2	2	節分・豆まき	荘内	16名	

※ 誕生会は毎月第一木曜日に開催。

#### ウ サークル活動等

毎日 ラジオ体操（午前、午後）

月2回 グラウンドゴルフ（夏季、冬季はお休み）、介護予防体操、

月1回 脳トレクラブ、ぬり絵クラブ

#### エ 健康衛生管理

嘱託医が来荘し、血圧測定、聴診、問診、健康相談などの健診を月に2回実施し、合わせて入所者の日々の状態観察や毎月の体重測定などにより入所者の日常の健康状態を把握するとともに、専門機関による胸部レントゲン検査、心電図検査及び血液検査等の健康診断を実施し、疾病の予防と早期発見に努めた。

日々の生活においては、保健衛生に対する意識の啓発を図る中で、ウィルス等への感染予防対策として、手洗い、うがい、手指消毒などの励行とあわせ、希望する職員及び入所者には2回の新型コロナワクチン（5月、10月）及びインフルエンザワクチン（10月）の接種を受けていただいた。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、2類相当から5類に移行したこともきっかけとして、地域の感染状況も把握する中で、行動（外出）制限や面会制限を緩和することとしたが、年間を通じ施設内でクラスターが発生することはなく、入所者2名、職員5名の感染を確認した程度で1年間が経過した。

なお、通院やデイサービス利用時にそれらの施設で感染者と接触した入所者もいたが、その後の健康観察で感染を確認することは無かった。入所者には外出の機会が増えてきているので、引き続き油断することなく感染予防対策を徹底するようお願いをしている。

健康管理に関する諸状況は以下の通り。

(ア) 「感染症予防対策委員会」「服用薬管理委員会」「人身事故防止対策委員会」「入浴施設衛生管理委員会」「身体拘束等適正化委員会」を3か月に1回開催し、新型コロナウイルスへの感染予防も含め感染症の発生防止、及び健康管理、安全管理、服用薬の管理取扱い等について日常の対応の検証や今後の業務改善について検討した。安心、安全な日々の生活が送れるよう引き続き感染症の発生防止、衛生管理等の徹底に努めていく。

(イ) 入所者の疾病による通院・入院の状況は次の通り。

(通院者・入院者の延べ人員)

(単位：名)

区 分	内科	外科	整形外科	脳神経外科	泌尿器科	耳鼻科	婦人科
通院者	228	11	473	12	17	7	0
入院者	132	16	157	0	34	0	0

区 分	心臓外科	眼科	精神科	皮膚科	歯科 口腔外科	心療内科	ペインクリニック	合 計
通院者	0	86	30	11	130	0	12	1017
入院者	0	0	10	0	0	0	0	349

※通院者：1名が15日通院すれば延べ15名とカウント 入院者：1名が10日入院すれば延べ10名とカウント

(ウ) 保健室業務状況

服用薬管理 (延) 7,560名

疾病等相談業務 (延) 574名

(エ) 嘱託医のへいりん荘における診療業務

内科診療 (延) 937名

オ 介護保険関係 ※ 介護保険サービスは重複利用者有り。

(単位：名)

介護 保険 認定 者	介護度	要支援1	要支援2	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	計
	男	2	2	3	2	0	0	9
	女	5	4	5	6	0	0	20
	計	7	6	8	8	0	0	29

(単位：名)

介護 保険 利用 者	利用形態	デイサービス	入浴介助	通院介助	生活援助	介護ベッド	福祉用具	計
	男	3	4	0	0	1	0	8
	女	4	7	0	0	4	3	18
	計	7	11	0	0	5	3	26

## カ 給食

入所者の嗜好を十分に把握する中で、バランスがとれ、バラエティに富み、栄養価に配慮した献立を作成し、入所者の食欲が増進され手づくりの味が堪能できるよう吟味した食材で調理した美味しい食事を提供することを基本に給食を実施した。

誕生会をはじめとする行事食は、特別メニューの献立とすることで、食事への関心が深まるよう対応するなど、季節を感じることでできるメリハリをつけた食事の提供を心掛けた。

さらには、減塩・低脂肪に配慮した調理により老化への影響を防ぐとともに、個々の体調に見合った療養メニューも用意し、食生活の面からの入所者の健康支援、体調の維持にも留意した。

なお、「給食委員会」を3か月に1回開催し、入所者の食事について問題点・改善点を検討し、食材に関しては、多くの品目で値上がりが続く中で事業予算にも影響が出ていることから、献立のメニューを工夫するとともに、納入数量の調整や交渉による価格の抑制を図り、経費の節減に努めた。

## キ 環境保全と美化

入所者の協力を得て荘庭の樹木の手入れ、花卉類の栽培育成、害虫の駆除、除草、ごみ類の収集処理を行うとともに、浴場、食堂、廊下などの共用場所の清掃等は常時実施した。また、専門業者により廊下の床面やジュタン敷部分及び浴室の定期的清掃を行うとともに、主として居室棟・食堂棟周りの殺菌・殺虫消毒作業も行い、環境の美化と不快害虫のいない安全で心安らぐ住みよい環境づくりに努めた。また、庭内遊歩道、緑地帯等の整備などにより、ゆとりある生活環境の保全と周辺的美観の維持を図った。

## ク 防災対策等

日常の防災意識を高めるとともに、非常の際の避難方法の周知徹底を図るため、消防計画及び地震防災応急計画に基づき総合防災訓練や避難訓練を実施した。また、消防設備等については、専門業者により動作確認等の定期点検を行い、機器のバッテリー交換や使用期限の到来している消火器の入れ替えを行った。

日常業務においては随時、居室内の落下危険物の点検、廊下等の危険個所の確認や段差の解消、手すりの設置などの必要な対応を行い、不慮の事故の発生防止に努めた。

なお、入所者が外出した際の交通事故防止については、入所者集会等で注意を促すとともに、万一に備え入所者へは氏名・住所を記載した身分証明書を配布している。

## ケ 地域交流関係

新型コロナウイルスへの感染が引き続き心配されることなどから、令和5年度も地域との交流の機会は設けることが出来なかったが、地域への貢献事業として、甲府市南東地域包括支援センターの協力を得て、チームオレンジへいりん荘を立ち上げ、11月15日に周辺福祉施設のスタッフ等の参加も得て、「認知症予防講話」や「認知症相談コーナー」「レクリエーションコーナー」など認知症予防等に関するイベントを開催した。

なお、玉諸小学校PTA様からは、入所者の心を癒していただければと、寄せ植えの花鉢とタオル類のご寄附（プレゼント）を、また玉諸地区社会福祉協議会様からは敬老会に際しての慰問品をいただいた。

## コ 苦情解決制度関係

今年度は、本荘の職員に対する利用者からの苦情の申し出、入所者相互の苦情の申し出は、0件だった。

## 5 運営組織及び人事管理

### (1) 基本的考え方

施設運営の良否は、その運営組織が円滑に機能し、いかに入所者に良質で適切なサービスを提供しているかによって評価される。この課題に取り組むためには、運営する組織の体制と業務に携わる職員の意識が重要であることから、限られた人員の中で簡素で効率的な運営組織を編成し、職員個々の人間性や能力を尊重する中で研修会等を通して当施設で働く職員として相応しい人材育成に努めることとしている。

### (2) 理事会、評議員会及び監事会

社会福祉法の趣旨に沿って、各理事においては、職員との連携を密にし、事業の進め方や課題解決に向けての協議を行う中で、理事会として速やかに法人としての意思決定を行い、また、各評議員においては、決算の承認等の手続において、事務局に対して必要な助言を行うとともに、組織運営の検証や今後の方向性を検討し、それぞれに円滑な法人運営に資する役割を果たしていただいた。

監事会においては、決算監査並びに定期監査を実施するとともに、各監事は、理事会等に出席して助言等を行い、法人及び施設の健全な運営に寄与していただいた。

### (3) 業務執行組織と人事管理等

ア 「処務規程」に基づき次の体制で業務を執行した。

組織別人員（令和5年4月1日現在）

（単位：名）

組織名	施設長	事務次長	生活相談員	事務員	看護師	介護職員	栄養士	調理員	計
軽費老人ホーム	1	1	1	1	1	4	1	4	14

職員構成（令和5年4月1日現在）

（単位：名）

男女別	施設長	事務次長	生活相談員	事務員	看護師	介護職員	栄養士	調理員	計
男	1	1	1			1			4
女				1	1	3	1	4	10

在職年数（令和5年4月1日現在）

（単位：名）

1年	3年	4年	5年	6年	7年	13年	17年	19年
3	1	1	1	1	2	2	2	1

年齢構成（令和5年4月1日現在）

（単位：名）

21歳～30歳	31歳～40歳	41歳～50歳	51歳～60歳	61歳～70歳
0	0	6	4	4

### イ 業務の執行状況

入所者に関する情報や身体・生活状況を職員相互に把握、共有することが、入所者への適切なサービスに繋がることから、平日は朝礼（職員会議）において、入所者の前夜の状況について当直者から報告を受けるとともに、当日の行事等や入所者の外出、通院等の動向について確認を行っている。また、夕方には事務次長を中心とした職員のミーティングを行い、

当日の入所者の状況確認や当直者への必要な情報の伝達などを行っている。

毎月1回のサービス会議においては、入所者の生活全般にわたる円滑な支援やレクリエーション行事について検討を行うとともに、3か月に1回開催する入所者の安全・危機管理対策等に資する委員会においては、日常業務の様々な課題や問題点を拾い出し、その対応方法を検討し解決に努めている。入所者への具体的な支援としては、高齢化に伴う身体機能の低下等、入所者個々の状況に配慮する中で、入浴見守り、買い物や洗濯の手伝い、通院等の介助、汚物処理、行政機関等への各種申請手続きの補助、金銭管理等を行い、入所者の状況に応じてきめ細かな対応に努めている。また、職員は組織の一員であるとの認識に立ち、日常業務における相互協力や創意工夫により、円滑な施設運営が出来るようそれぞれの立場で業務にあたっている。

#### ウ 職員研修等

外部への研修等は行わなかったが、荘内での職場会議、職員研修会の開催等を通して、職員の資質向上を図った。

##### (研修概要)

月 日	参 加 職 員	研 修 内 容	場 所
8月21日	職員（8名）	認知症サポーター講座	へいりん荘
9月20日	職員（8名）	認知症サポーター講座	へいりん荘
9月22日 26日	職員（7名） 職員（6名）	感染症防止、人身事故防止、身体拘束に関する研修	へいりん荘
3月12日	荘長、栄養士	特定給食施設における栄養管理状況について、給食施設の衛生管理について、感染症対策について（オンライン聴講）	へいりん荘
3月15日 22日	職員（9名） 職員（4名）	感染症防止、人身事故防止、身体拘束及び虐待防止に関する研修	へいりん荘

#### エ 職員の処遇改善

諸物価高騰対策として山梨県からの賃上げ支援金（補助金）を活用し、令和5年度の1年間に限り職員に6,000円/月の物価対策臨時手当を支給するとともに、職場環境の改善の一環として調理室のトイレをリニューアルした。また昨年度創設した処遇改善特別手当も引き続き補助金を活用して支給を継続している。

#### 6 施設等の整備状況（施工した主な工事は次の通り）

- ・浄化槽の修繕工事（チェッカープレート補修ほか）
- ・浴室（男女）入り口に手すりの設置工事
- ・調理室トイレのリニューアル工事
- ・食堂ホールのエアコンの省エネタイプへの交換工事
- ・火災報知機等消防設備修繕工事